

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 「わかりやすく楽しい授業」や「個々の進路実現に役立つ授業」など生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上
 - ア 教員研修・教員間の指導法の共有により、生徒1人1台端末やその他 ICT 機器を活用した授業を多くの教員が取り入れ、「知識・技術」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう態度」を育成
- (2) 3年間を見通した学力および学習習慣の育成
 - ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施し、教員の分析会や保護者懇談で活用
 - ※ 学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答を令和7年度も75%以上を維持 (R2:81.9%/R3:76.5%/R4:75.3%)
 - ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答を令和7年度も90%以上を維持 (R2:96.0%/R3:92.5%/R4:94.7%)
 - ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB3以上を令和7年度も維持 (R2:B3/R3:1年B2・2年B3/R4:1年B2・2年B3)

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化
 - ア 各行事の生徒実行委員の公募による多くの生徒の企画への参画
 - イ 部活紹介や体験入部期間を学年行事として実施
- (2) 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画
 - ア 外部団体等と連携したSDGsへの取り組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣
 - イ 地元NPO等と連携した国際交流活動を企画・推進
 - ※ 部活動への参加率を令和7年度も65%以上を維持、活動実績の向上 (R2:69.6%/R3:69.8%/R4:64.9%)
 - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和7年度も25%以上を維持 (R2:25.1%/R3:27.8%/R4:27.0%)

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築
 - ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり
 - イ 学年・教育相談委員会との情報共有とOJTによる経験年数の少ない教員への相談スキルの育成
- (2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
 - ア 人権HRや講演会、教員研修の実施
 - イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定
- (3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導
 - ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布
 - イ 外部講師による交通事故の防止、SNSの適正利用についての講演会の実施
 - ※ 学校教育自己診断：「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答を令和7年度も65%以上を維持 (R2:66.9%/R3:68.2%/R4:68.4%)
 - ※ 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答を令和7年度も80%以上 (R2:88.3%/R3:87.5%/R4:84.9%)
 - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答を令和7年度も80%以上を維持 (R2:85.7%/R3:86.1%/R4:84.6%)

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 早い段階からの進路意識の涵養
 - ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習
 - イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立
 - ウ 進路ガイダンスの実施
- (2) 進路目標達成に向けたサポート
 - ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施
 - イ 英検受験の推進と合格に向けたサポート
 - ウ 自分の意見を相手にわかりやすく伝える力の育成
- (3) 「ともに学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート
 - ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有
 - イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通じた社会性スキルの育成
 - ※ 英語運用能力テストでCEFR A2レベル以上相当資格取得者を令和7年度も40名以上在籍 (R2:未実施/R3:1回のみ実施/R4:74名)
 - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答を令和7年度も40%以上を維持 (R2:45.9%/R3:48.5%/R4:45.2%)
 - ※ 共生推進教室の卒業時の希望進路達成を令和7年度も100%を維持 (R2:100%/R3:100%/R4:100%)
 - ※ 中堅上位以上大学(国公立・関関同立・産近甲龍など)レベルの現浪合格数を令和7年度も200以上を維持 (R2:177/R3:279/R4:332)
 - ※ 中堅大学(摂神追桃など)レベルの現浪合格数を令和7年度も200以上を維持 (R2:205/R3:388/R4:260)

5. 広報活動の充実

- (1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散
 - ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進
 - イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会(説明会)を企画・実施
 - ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信
 - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答を令和7年度も75%以上 (R2:88.8%/R3:89.1%/R4:74.6%)
 - ※ 中学3年生対象第1回進路希望調査において令和7年度も希望倍率2.0以上 (R2:2.46倍/R3:2.34倍/R4:1.98倍)

6. 職員の時間外勤務時間の縮減

- (1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり
 - ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底
- (2) 部活動指導時間のマネジメント
 - ア 月間活動計画の掲示による情報共有
 - ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を40時間未満(令和3年度からの集計方式による)に令和7年度も維持 (R2:28h18m/R3:34h33m/R4:35h08m)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※ 教職員のいじめに対する組織的な対応、教育相談体制の充実、人権教育の充実が高まっていることが見れる。その成果が生徒項目「2. 担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」、「3. 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「14. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的な回答率の向上にも表れている。</p> <p>安全で安心な学校づくりへ効果が出ており、項目「1. 学校に行くのが楽しい」、「1. 子どもは、学校に行くのを楽しみにしている」においても生徒・保護者ともに評価を得ている。</p> <p>※ 教科指導、進路指導において、個々の進路実現に向けた取組みが功をなしている。しかし、保護者の回答からはその取組みが見えていない部分もある。とくに進路指導については、変化していく入試の情報等提供していくことも必要となる。</p> <p>※ 生徒は「授業レベルやスピードを調整してくれる授業」を、保護者は「知識にこだわらず人間性や社会性を養ってくれる授業」を、教職員は「進路希望が実現できる学力が高まる授業」を期待している。</p> <p>授業内容が進路につながることも、少しでも多く理解したい気持ちが高まっている。また、保護者からは学力も大切だが、社会性を高める授業を希望している記述回答も見られた。</p> <p>※ 学校の情報発信（ブログ等）は、多くの保護者の方に見ていただき、学校の教育活動の関心をいただいている。</p> <p>※ ボランティア活動、国際交流は実施できていない状況が続いている。国際交流も海外だけでなく、国内で実施できることから、進めていきたい。</p> <p>※ 記述式アンケートでは、感謝の言葉や貴重なご意見を多数いただいた。学校をよりよくするための意見もあり、全教職員で協力して改善する取組みが必要となる。</p>	<p>【第1回（令和5年6月17日実施）の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画について、他校の中期的目標は3～4個のところが多いので、重複部分などの調整が必要。内容について異論はない。グローバルな視点が中期目標に少ない。韓国・中国などの生徒が学校見学や交流などに来る機会も増えてくることが予想される。国際交流を通して、英語の学力へのモチベーションを高めていくべき。 ・産近甲龍・関関同立などの大学は、受験人口減少にともなって合格ラインは下がってきている。近年、高校の特色化が進んでいる。学校の特色を打ち出し、地域に発信できるかが重要である。多様な問題がある中で、システムの体系化が必要である。大学入試に関しては、「年内に決めたい、近いほうがいい、部活や塾の先輩が選んでいるところを選ぶ」という生徒の傾向が大きい。浪人生も減少している。生徒集団の雰囲気があれば、進路実績は伸びてくる。校内の明るさ、教員の声掛けが進路指導に大きな影響を与えている。カリキュラムを今後どうするか検討すべき。 ・なぜ学校見学会を8月末の中学生が行けない日程に行っているのかと保護者から苦情が来ている。学校見学会の日程に実力テストを入れている中学校もある。8月25日から短縮ではない、通常授業を中学校では行っている。今後、実施日時を検討すべき。 ・生徒への情報提供・保護者への情報提供をますます充実していくべきである。 ・部活動入部率の低下は何故か。コロナの関係もあり、中学校で部活に入っていない生徒が増えている。教員の働き方改革と部活動の在り方との兼ね合いについてはまだまだ検討すべきことが数多くある。 ・ICTを使用することが目的になっていないか。中学校では動画を見るだけ、表を作るだけの使用になっている。生徒は50分授業で集中力がもたないので、息抜きに動画を活用するなどを考えている。効果的なICTの使い方について議論しなければならない。ICTを要素として外すことは不可能だろう。活動あって学びなしにならないように、各校での情報の蓄積が必要である。 <p>【第2回（令和5年10月14日実施）の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の進学実績は、府立高校ではトップクラスの上昇を見せている。目的意識を早めに持たせることが大事であり、目的意識を持てるような声掛けも重要である。 ・夢設計「先輩に聞く」の講演会は、進路意識をもたせるためにはすごく良い取り組みである。卒業生に来てもらって話をしているので、すごく大切な機会で、参加した人の評判はすごく良いことから、たくさんの人に参加していただけるような工夫をして欲しい。 ・私学の無償化については、現時点では、公立高校よりも、公立中学校に影響が出て来つつある。高校3年間で無償であれば、中学校から私学に行こうという雰囲気が出て来ている。進路指導が行き詰まる可能性もあり、公立中学校の役割が変わってくるのではと懸念している。しかし、私学の無償化とはいえ、初期費用と定期代などが経済的に厳しい状況もある。その点では公立高校の存続はすごく大事なことである。私立高校では広報活動に力を入れており、月に数回の訪問もあると聞いている。今後は、学校の魅力をいかに発信するかが重要になってきている。HP上でのブログは学校の情報発信の場として効果的である。 ・保護者の関心として、情報提供のあり方が一つのポイントになっている。一般的などの学校も、保護者と一緒に進路先を決める家庭が多くなっている。 ・クラブの入部率が、イメージより少し少ないように思う。 ・中学生に久米田高校がすごく人気。行事も充実している。 ・中学生が進路を決めている流れとしては、私学は12月の最後の懇談で決める。その時に公立も大体決める。公立を最終的に決めるのは2月。 ・次年度の夏の学校説明会の時期については、8月26日が始業式の予定なので、それ以前ならありがたい。 <p>【第3回（令和6年2月17日実施）の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にも部活動の入部数が減少していることについて、先輩後輩の関係や役割など人間関係をわずらわしいと考える生徒が増えてきているのが要因と言われている。1つの学校の中で解決できる問題ではないのかもしれない。生徒のコミュニケーション能力も減退していくのではないかと思われる。これから学校はどうしていくのかを考えなければならない。グループ学習などで育成していく必要があるかもしれない。 ・ICTについて中学校でデジタル採点の導入を検討している。 ・チャットGPTを活用した問題用紙の作成や英作文の採点など、ICT活用が今後広がっていくことが予想される。他校でもICTをどう活用するか関心が高い。 ・他校の様子を見るとコロナ禍で部活動の入部率の数値が下がり、上がってきていない。防犯カメラを含め、学校の安心度について関心は高い。生徒・保護者・教員のアンケート結果についてギャップがあるのが興味深い。 ・授業に求めるものが生徒・保護者・教員で結果が異なる。他校の例だが、『楽しい学校生活』を推して」というキャッチコピーを打ち出し人気が高まっているところもある。進学校とそうではない学校で、学校に何を求めるかが今後もっと変わっていくのではないかと思う。通信制の学校も行事を大切にしている。24万人の生徒が通信制に通っている。これからのライバル校は上位校ではなく、通信制高校であるとの話も聞く。学校の存在意義をどう作るか。その上で行事は重要である。通信制でも行事に強い学校もある。例えば有名政治家が公演に来たりすることもあり、普通科高校と大きな乖離がある。 ・他府県では、保護者負担を減らすために修学旅行先を近場で行うようにしている事例がある。しかしながら、1人1台端末については、大阪府は貸出であるが、他の自治体では保護者負担である。大阪と和歌山のみ貸出。

府立久米田高等学校

・新カリキュラムから入試も変わるが、どのように対策しているか。
 ・新課程になることで高校教員が苦勞しており、入試が変わることで更に苦勞があるのではないかと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) 生徒の実態に応じた幅広い内容の授業による、生徒の授業満足度の向上</p> <p>ア 職員研修・職員間の情報共有</p> <p>(2) 3年間を見通した学力および学習習慣の育成</p> <p>ア 学力生活実態調査及び全国模試を実施</p>	<p>(1) 生徒1人1台の端末やICT機器を活用し、生徒が自ら考え発表し、主体的に活動できる能力を寛容する。</p> <p>ア 職員研修や実践報告会を1・2学期に1回ずつ実施</p> <p>感染症や災害による出席停止等で授業に参加できない生徒への学習保障のためオンライン授業などを実施する。</p> <p>教員のICT活用を促進するため、活用方法の情報共有を進める。</p> <p>(2) 学力・学習習慣の育成</p> <p>ア 学力生活実態調査を4月に全学年、8月に1・2年生全員受験。全国模試を3年生は希望者で適宜、1・2年生は1月に全員受験。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」生徒の肯定的回答90%以上[94.7%]</p> <p>学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」生徒の肯定的回答75%以上[75.3%]</p> <p>学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」職員の肯定的回答60%以上[60.7%]</p> <p>教員ICT活用率75%以上[82.1%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 8月実施の1・2年学力生活実態調査の学力結果(GTZ)を 1年生B2以上[B2] 2年生B3以上[B3]維持</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」95.3%(◎)</p> <p>学校教育自己診断：「授業内容は進路実現に役立つ」83.1% (◎)</p> <p>学校自己診断「ICTの活用やグループ討議等により、思考力を高め、言語能力を重視した授業を行っている」68.4% (◎)</p> <p>教員ICT活用率86.0% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学力生活実態調査(8/29実施)の学力結果(△) 1年：B3(国B3・数B3・英B3) 2年：B3(国B3・数B3・英B3)</p> <p>教科を超えて学習指導に関する実践事例を共有・研究できるよう組織的な授業改善を図りたい。</p>

府立久米田高等学校

<p>2 自主的な活動の推進</p>	<p>(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化</p> <p>ア 各行事への多くの生徒の企画参画</p> <p>イ 部活紹介や体験入部の実施</p> <p>ウ キャリア教育の推進</p> <p>(2) 地域連携</p> <p>ア 地域と連携した事業並びに国際交流への積極的な参画</p> <p>イ 外部団体等と連携したSDGsへの取組みや地域のイベントに積極的に生徒を派遣</p> <p>ウ 地元 NPO 等と連携した国際交流活動を企画・推進</p>	<p>(1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化</p> <p>ア 生徒会主催で、運動部員を中心とした実行委員会を組織し企画・運営する。</p> <p>イ 入学当初に1年生に対しての部活紹介を実施。併せて全員必参加の体験入部期間(1週間)を学年行事として位置づけ実施する。</p> <p>ウ 社会保険労務士講演、卒業生(公務員、教員等)から仕事についての話聞く</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域と連携した事業並びに国際交流</p> <p>イ ESNSSPO2025 共創チャレンジへの参画「KIOUETAI」の活動に共生推進教室や生徒会・写真部とともに植栽活動に参加</p> <p>地元専門学校と地方創生SDGs「泉州美食」ESNSSPOに3年生の家庭科選択者を中心に参加</p> <p>ウ 地元 NPO 等と連携したオーストラリアの高校への生徒派遣事業を実施。新型コロナで派遣不可能な場合はオンラインで交流会等を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」生徒の肯定的回答85%以上[92.3%]</p> <p>イ 入部率65%以上[64.9%]</p> <p>ウ キャリア教育に係る講演や仕事に関する講話等を聴く企画を2回以上実施</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域と連携した事業への参画を2回以上実施</p> <p>イ 学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答30%以上[27.8%]</p> <p>ウ 海外の高校生との交流事業を1回以上実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校自己診断「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるよう工夫されている。」96.1% (◎)</p> <p>イ 入部率63.6% (○) コロナ禍による中学時部活動入部者減少の影響を受け、目標数値には少し届かなかった。しかしながら、今年度は、特に入学式前の登校日に外部講師を招き部活動の魅力についての講演会を実施、また、4月中旬にクラブ体験期間の設定、さらに、夏の学校見学会にもクラブ体験を追加の対応を行うなど、組織的な改善に取り組む学校体制ができています。今後も更なる工夫を行っていききたい。</p> <p>ウ 1年探究課題「SDGs」に関して10/4企業等の方からの講演。NPO公開講座夢設計「先輩に聞く」(5/27公務員編、10/28教員編)社会保険労務士による講演11/29など4回実施。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 岸和田商店街「どんチャカフェスタ」に4/9出演(フォークソング部、太鼓部)。地元ケーブルテレビ岸和田の地域情報番組に4/21から1週間出演(書道部)。岸和田市八阪町だんじり入魂式に5/4出演(太鼓部)。第66回岸和田市民スポーツ大会総合開会式4/15、ライオンズクラブ年次大会5/27、国際ソロプチミスト大阪南合同公演会6/11、田尻町制施行70周年記念事業10/21、岸和田 BALL MUSIC PARK11/5、認定NPO法人岸和田健老大学主催市民講座11/19、貝塚の水間観音デジタルアートフェス11/19に出演(ダンス部)(◎)</p> <p>イ 「TEAM EXPO 2025/共創チャレンジチーム/KIOUETAI」※のメンバーとして、折り鶴 JAPAN 実行委員会に参画。(※植栽体験を提供するチームのこと)</p> <p>学校自己診断「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」24.7% (△)</p> <p>ウ 海外の高校生との交流事業 0回 (△)</p> <p>自主的な活動の推進としては、行事の活性化、部活動の一環として地域イベントにもかなり積極的に参加した。今後は国際交流も工夫して活性化させていきたい。</p>
------------------------	---	---	--	--

府立久米田高等学校

<p>3 安全で安心な学校作り</p>	<p>(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築</p> <p>ア 生徒状況の把握及び相談しやすい体制づくり</p> <p>イ 学年・教育相談委員会との情報共有とOJTによる経験年数の少ない教員への相談スキルの育成</p> <p>(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。</p> <p>ア 人権HRや講演会、教員研修の実施</p> <p>イ 共生推進教室の生徒との協同事業や交流機会の設定</p> <p>(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについて継続的な指導</p> <p>ア オリエンテーションの実施や啓発文書の配布</p> <p>イ 外部講師による交通事故の防止、SNSの適正利用、講演会の実施</p>	<p>(1) 教員の相談スキルの向上及び教育相談体制の一層の構築</p> <p>ア 年度当初の「高校生活支援カード」の確認、年2回の「安心・安全アンケート」により、生徒状況の把握を完全に行う。</p> <p>生徒に相談窓口の設置を告知するとともに、休憩時間における校舎各階の教員による見守りを実施する。</p> <p>イ 週1回の学年会において生徒情報の共有を行い、必要に応じて管理職・首席・学年主任・教育相談委員会・SGが担当教員に指導・助言しながら対応に当たる。</p> <p>(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの涵養</p> <p>ア 全学年で年1回以上人権HRまたは人権講演会を実施。 人権に関する教員研修を最低年1回実施。</p> <p>イ 共生推進教室が企画する交流会を年1回以上実施。 共生推進教室の生徒と他の生徒とが協同して植栽事業に取り組む。</p> <p>(3) 規範意識の涵養、いじめ防止などについての指導</p> <p>ア 新入生オリエンテーションや集会を通じて基本的な生活習慣やいじめ撲滅について指導する。 毎月の遅刻指導を行う。</p> <p>イ 外部講師を招いた交通安全講習、eネットキャラバンによるSNSの利用方法に関する講演を実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」生徒の肯定的回答85%以上[84.9%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」生徒の肯定的回答65%以上[68.4%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答80%以上[84.6%]</p> <p>人権に関する職員研修を年1回以上実施</p> <p>イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」生徒の肯定的回答50%以上[45.2%]</p> <p>共生推進教室が企画する交流会を年1回以上実施。</p> <p>(3)</p> <p>ア・イ 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」生徒の肯定的回答80%以上[84.6%]</p> <p>年間遅刻総数を3000件未満[3969件]</p>	<p>(1)</p> <p>ア「いじめ等アンケート」(6・9・12月実施) 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.9% (◎)</p> <p>イ 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」71.6% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」89.2% (◎)</p> <p>人権に関する職員研修を、「人間関係力を高めるリフレーミングワーク」(9/21)、「全員が元気になる部落問題学習をめざして」(1/11)の2回実施。(◎)</p> <p>イ 学校自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」50.3% (○)</p> <p>共生推進教室「久米田コーヒー」をR5.6.20企画。コロナ禍明けでまずは対教師向けで実施。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」89.2% (◎)</p> <p>年間遅刻総数 4032件 (△) ※主な原因としては体調不良であるが、コロナ禍の影響等で、遅刻のハードルが下がっており、目標数値には至らなかった。今後も引き続き丁寧な指導に努めたい。</p>
-------------------------	---	--	---	--

府立久米田高等学校

4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	<p>(1) 早い段階からの進路意識の涵養</p> <p>ア 「総合的な探究の時間」を活用した進路学習</p> <p>イ 外部模試を活用した進路目標達成に向けた準備戦略の確立</p> <p>ウ 進路ガイダンスの実施</p> <p>(2) 進路目標達成に向けたサポート</p> <p>ア 希望者による学習合宿や進学講習の実施</p> <p>イ 英検受験の推進と合格に向けたサポート</p> <p>ウ 自分の意見を相手にわかりやすく伝える力を育成する</p> <p>(3) 「ともに学び、ともに育つ」の理念の下、共生推進教室の生徒の社会性スキルの育成と就労をサポート</p> <p>ア すながわ高等支援学校との教育方法の共有と教員間の指導目標の共有</p> <p>イ 外部団体と連携した就労体験や体験活動を通じた社会性スキルの育成</p>	<p>(1) 早い段階からの進路意識の涵養</p> <p>ア 1年生から「総合的な探究の時間」を活用して自分のキャリアを見通した進路選びと目標を立てりレポートする。</p> <p>イ 1・2年生において全国模試を1月に全員受験させ、その結果や定期考査の成績、取得した資格や受賞歴などを「夢設計手帳」(本校独自の多機能スケジュール帳)に記載させる。使用方法について校内で検討を進めていく。</p> <p>ウ 講師派遣業者や大学・専門学校と連携した全学年への進路ガイダンスの実施。卒業生を招いた進路ガイダンス「先輩に聞く」を実施。</p> <p>(2) 進路目標達成に向けたサポート</p> <p>ア 3年生の夏期講座や希望者による土曜講座を開講。1・2年生対象の夏期・春季学習会等を開講。</p> <p>イ 英検受験の推奨と英語科による対策学習の実施により合格をサポート。</p> <p>ウ 個々の生徒の発信力を高める</p> <p>(3) 共生推進教室の生徒と他の生徒が一緒に活動できる事業の創設を進める</p> <p>ア すながわ高等支援学校の教員の久米田高校訪問を年1回以上実施。すながわ高等支援学校と久米田高校教員との情報交換の促進。</p> <p>イ 障がい者の就労支援団体と連携しながら、2年生から共生推進教室の生徒の就労体験を進め、卒業時の就労内定を支援。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」85.0%以上をめざす[84.6%]</p> <p>イ 進路アンケートにより、「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒60%以上[62.3%]</p> <p>ウ 実施後アンケートにより、全学年向けガイダンスの肯定的回答80%以上[95%]「先輩に聞く」公務員編(R5.5.27実施予定)肯定的回答95%以上[100%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 中堅上位以上大学レベルの現浪合格数250以上を維持[332]中堅大学レベルの現浪合格数250以上をめざす[260]看護系20人以上を維持[61]公務員10人以上を維持[14]</p> <p>イ CEFR A2レベル以上相当資格取得者40名以上[74名]</p> <p>ウ 1年プレゼンテーション大会を実施</p> <p>(3)</p> <p>ア・イ 共生推進教室3年生全員の進路決定[66.7%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」87.7%※過去5年で最高値(◎)</p> <p>イ 進路アンケートにより、「夢設計手帳」にキャリア情報を記載している生徒60.0%(○)</p> <p>ウ 実施後アンケートにより、全学年向けガイダンス100%(◎)「先輩に聞く」(公務員編5/27)100%(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 中堅上位以上大学レベル R4:332→R5:363 中堅大学レベル R4:260→R5:171 看護系 R4:61→R5:52 公務員 R4:14→R5:3 1・2対象夏期集中学習会7/10～7/14の5日間実施し、参加者1年54名、2年11名 計65名参加。(○)</p> <p>イ CEFR A2レベル以上相当資格取得者77名(◎)</p> <p>ウ 1年プレゼンテーション大会12/21実施(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア 共生推進教室3年生全員進路内定(◎)</p>
5 広報活動の充実	<p>(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散</p> <p>ア 地元中学校との部活などによる合同活動を推進</p> <p>イ 多くの参加者が安全に楽しく体験授業や部活見学などに参加できるよう学校見学会(説明会)を企画・実施</p> <p>ウ 学校ホームページなどを活用した本校の教育活動の積極的な発信</p>	<p>(1) 本校の生徒や教育活動の地域への拡散</p> <p>ア 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する</p> <p>イ 新型コロナ感染対策を講じた上で、できるだけ多く参加いただけるよう実施教室を増やしたり、ローテーション数を増やしたりするなどして学校説明会を実施する。</p> <p>ウ 積極的に学校ホームページを更新し、本校の教育活動をタイムリーに発信する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.00倍以上[1.98倍]</p> <p>ア 連携活動を4回以上実施</p> <p>イ 本校主催の学校説明会を年2回以上実施</p> <p>ウ 学校教育自己診断:「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者の肯定的回答75%以上維持[74.6%] 校長ブログ100件以上更新をめざす[89回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ 中学3年生対象10月進路希望調査における希望倍率は2.02倍(○)</p> <p>ア 貝塚四中・五中の吹奏学部とコラボ岸和田市小学生親子ダンス鑑賞会6/11開催、岸和田の小学生・中学生対象の公演会3/16開催(ダンス部)。堺市立中学校11/7、岸和田市立中学校1/26進路講演会参加。貝塚市で共生推進教室説明会を実施。(◎)</p> <p>イ 本校主催の学校説明会を、夏:8/30、8/31、秋:11/18、冬:12/23に3回(計4日)実施(◎)</p> <p>ウ 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」83.2%(◎) 校長ブログ131件更新(◎)</p>
6 職員の時間外勤務時間の縮減	<p>(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり</p> <p>ア 生徒の最終下校時刻遵守の徹底とそれに合わせた職員の退勤の徹底</p> <p>イ 部活動指導時間のマネジメント</p> <p>ウ 校務運営の効率化の推進</p>	<p>(1) 職員が19時までに退勤できる職場環境づくり</p> <p>ア 校内放送で最終下校を知らせる。日直教員の校内巡回、部活指導方針への明記などにより部活完全下校時刻を徹底する。それに合わせて部員とともに退勤する習慣を管理職から随時呼び掛けを行う。</p> <p>イ 月間部活動計画書を校内の廊下に掲示し、誰もが確認し合い、遵守するよう促す。時間外勤務時間数の多い教員には管理職が随時ヒアリングを行い部活の運営マネジメントについて助言する。</p> <p>ウ 校務分掌の定員見直しの実施</p> <p>ICT機器及びその環境整備の充実を行って校務運営の効率化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ 職員の月平均時間外勤務時間数を年間40時間未満維持[35h8m]</p> <p>ウ 校務分掌の定員見直しの実施</p> <p>連絡事項等の電子掲示板化を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ 職員の月平均時間外勤務時間数を年間34h17m(○)</p> <p>ウ 職員数及び勤務実態等を考慮して校務分掌の定数を決定する。(○)</p> <p>R5年度から、情報共有サービスを使い、連絡事項や長期休業中の動静表等に活用しており、事務室との連絡連携に役立っている。(○)</p>